

1. 授業の基本情報

本授業は、平成 29 年 11 月に改正・施行された教育職員免許法施行規則によって、免許状取得の必須科目となり、本学では今年度後期から 2 回生を対象として設置・開講され始めた授業である。1 単位取得科目として設定されており、今年度は第 3 クォーターで中等教育・特別支援コースに所属する 2 回生 72 名、第 4 クォーターで幼年教育・小学校サブコースに所属する 2 回生 112 名（いずれも当該教員免許を取得希望の教職大学院生及び科目等履修生を含む）が履修した。

本授業では、総合的な学習の時間について、またその指導方法について体系的に学習できるようカリキュラムを設定したが、とりわけ次の 2 点を強く意識して、カリキュラムを編成・実施した。

一点目は、平成 10 年の学習指導要領改訂から全国の小・中・高で導入された「総合的な学習の時間」について、これまで大学の教員養成の中で、その本質を学ぶ場が無いまま約 20 年が経過し、実際の学校現場では、総合的な学習の時間について学んでいない教員が手探りで実践開発を行ってきたことから、質が高く効果的な取組が一部の学校でなされている一方で、ほとんどの学校では形骸化し、マニュアル化された単調で浅薄な学習しか実施できない教員・学校が多く存在している現状を理解し、改善する意識を持てるような授業として構成したことである。

二点目は、平成 29 年・30 年改訂の学習指導要領において、①総合的な学習の時間において探究的な見方・考え方を育むよう目標が改正されたこと、②他教科と同じく知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の 3 つの視点で資質・能力が整理され、より教科との往還を図り、横断的で総合的な学びを進めること、③高等学校においては総合的な学習の時間から「総合的な探究の時間」に名称が変更され、より「探究的な学び」の質を高めるために系統立てて育成していくことが目指されたこ

と、以上の 3 点を大きな柱として改正されたため、校種を問わず今後教員免許状を取得し、学校教員となって職務を遂行していく上で、新しい総合的な学習の時間の在り方をしっかりと把握し、創造的で豊かな学びを構築できる意欲と態度を身に付けることができるような授業として構成したことである。

今年度はコロナ禍において対面授業が制限される事態となり、当初計画していたとおりの内容で実施することができない部分も生じた。具体的には、第 3 クォーターで実施した中等教育・特別支援教育コースの学生が履修した全 8 回は、大講義室を利用して対面で実施することができた。しかし、第 4 クォーターに実施した幼年教育・小学校サブコースの学生が履修した全 8 回の講義のうち、2020 年内に実施された第 1 回～第 3 回までは、大講義室で学生同士との距離を確保し、換気や感染予防策を講じながら対面にて実施できたが、2021 年に入ってから実施した第 4 回～第 8 回の講義は、愛媛県の新型コロナウイルス感染状況が悪化し、愛媛県独自の警戒期間になったことや大学入試共通テスト実施までの遠隔授業実施及び第 4 クォーターの対面授業原則禁止の措置が講じられた。そのため、第 4 回～第 8 回の授業は非同期型 (Moodle) による講義と同期型 (ZOOM) による講義を併用して授業を実施することとなった。

実際の授業計画は次の通りである。全 8 回の授業の前半は、総合的な学習の時間の意義や歴史的経緯、現状や課題について、理論等も踏まえながら、学生自身の学びの経験を想起させつつ、総合的な学習の時間の特徴や概観が捉えられるように構成して授業を展開するようにした。後半は、先進的に取り組んでいる県内外の総合的な学習の時間の授業事例を豊富に取り上げて紹介することで、総合的な学習の時間の授業内容やカリキュラムについてイメージが膨らむように配慮した。また、実際の学習過程（探究過程）を進める際に必要な指導上のポイントや効果的な指導技術、展開の仕方などを説

明するとともに、児童生徒が主体的・意欲的に探究的な学びを行うための環境づくりや支援の方法について、学生同士が議論を深めつつ、多様で魅力ある総合的な学習の時間のカリキュラムや学びの在り方について考えていけるように配慮しながら、授業を組み立てた。

また、第7回目の授業では、それまでの授業で理解した内容を踏まえながら「オリジナル単元案」の作成を必須課題として課すとともに、その案を持ち寄って、4人程度のグループに分かれて相互発表する機会を設け、学生同士が主体的に学び合える場を設定するとともに、教科書がない領域である総合的な学習の時間の授業づくりのポイントについて理解を深められるようにした。これは、2回生後期での履修が原則である本授業終了後、次年度に附属校園での教育実習を行うことを踏まえて、より実践を意識して受講できるようにするためである。

授業全体を通して、受講者は総合的な学習の時間の現状や課題を理解するとともに、精力的・意欲的に授業に参加し、意識の変容や成長が多く見られた。

2. 授業評価・授業研究の内容

①授業評価について

第4クォーターの幼年教育・小学校サブコースの履修生に対しては、第8回目（最後）の授業時に DP との対応関係の調査を行うことができた。非同期型（Moodle）での講義であったため、履修生のうち64名の回答となったが、その結果を（表1～4）に示す。

（表1） 知識・理解に関するアンケート結果

知識・理解 ：教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。	
とてもそう思う	43人
ある程度そう思う	20人
あまりそう思わない	1人
授業の内容・目標がこの DP とは無関係である	0人

（表2） 技能に関するアンケート結果

技能 ：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。	
とてもそう思う	25人
ある程度そう思う	38人

あまりそう思わない	1人
授業の内容・目標がこの DP とは無関係である	0人

（表3） 思考・判断・表現のアンケート結果

思考・判断・表現 ：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	
とてもそう思う	33人
ある程度そう思う	31人
あまりそう思わない	0人
授業の内容・目標がこの DP とは無関係である	0人

（表4） 興味・関心・意欲、態度の結果

興味・関心・意欲、態度 ：教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。	
とてもそう思う	37人
ある程度そう思う	27人
あまりそう思わない	0人
授業の内容・目標がこの DP とは無関係である	0人

上記の結果から、どの項目においても、概ね学生にとって学びのある授業であったと分析する。既習体験の語りや総合的な学習の時間のイメージの共有を導入時にグループワークとして取り入れて、総合的な学習の時間の現状や課題を明確にした上で、平成29・30年改訂の学習指導要領及び解説における指導上のポイントや設立の経緯を説明することで、総合的な学習の時間の意義や役割について理解することができたのではないかと考えている。また、筆者自身が公立の小中学校教員、教育委員会指導主事として勤務していた経験があるため、それを活かし、なるべく多く現場の実践事例や授業方法、指導法などを紹介したため、リアリティを持って講義に参画することができていた。教員を目指す学生が最も不安視し、知りたいと感じているのは学校現場の生の声であり、その経験をもとに直接伝えることができる立場であ

るため、学生もある程度、意欲的に受講できたのではないかと考える。

一方で、「あまりそう思わない」と回答した学生も1名いた。今回は初めて開設された授業であったため、情報提供が多すぎたことが原因の一つであると考え。もう少し1つ1つの事象やポイントについて丁寧に説明したほうが、知識の理解も深まり、学生自身の達成感や充実感につながったかもしれない。次年度以降、改善をしていきたい。

②授業研究の内容について

実践的な授業内容を意識して取り組んだ点について、以下に紹介する。一点目は、単元案の作成と説明会（発表会）の時間を設けたことである（図1、2）。単元案は、第7回の授業で相互発表するようにし、それまでの授業で学んだことを活かすように指導した。つまり、横断的で総合的な学習ということを意識して、実現してみたい単元を構想することとした。講義の最後に学んだことを活かしたオリジナル単元案を作成し、発表するというゴールを設けることによって、学ぶ意識を高く持って取り組めたようであった。

（図1）履修生全員が作成した総合的な学習の時間のオリジナル単元案

総合的な学習の時間-防災教育(資料)

避難の地域を通過しよう
安心・安全な地域づくりへの歩道を目指して。

オリジナル単元案の詳細になります。現実的ではない部分も多いかと思いますが、現時点で考える活動をまとめました。

■(ピンク)…課題の設定、■(青)…情報収集、■(オレンジ)…情報の整理・分析、■(緑)…まとめ・学びの実践

※(黄)…各教科との関連

期	月	テーマ	内容(案)	詳細(案)	回数	教科との関連・その他
1学期	10月	防災教育	ガイダンス	授業の提示	1	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	2	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	3	アンケート調査において活用(Googleフォーム等)の利用
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	4	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	5	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	6	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	7	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	8	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	9	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	10	
2学期	11月	防災教育	「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	11	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	12	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	13	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	14	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	15	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	16	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	17	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	18	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	19	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	20	
3学期	12月	防災教育	「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	21	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	22	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	23	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	24	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	25	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	26	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	27	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	28	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	29	
			「避難の地域」と「いざの地域」	「避難の地域」を提示する	30	

（図2）グループ発表のために各自が作成・使用した補助資料

単元案は作成して提出するだけにせず、授業説明や模擬授業を行う時間を取った（中等教育コースは対面で実施できたが、初等教育コースは感染状況の悪化によりZOOM上での発表となった）。グループに分かれて1人20分程度の時間を使い、単元作成で工夫したポイントなどを説明し合うことで、互いに刺激を受けながら、よりよい総合的な学習の時間の在り方について理解を深めていく様子が見てとれた。

二点目は、実際の学校現場で実践されている学習を見聞する機会を設けたことである。今回は、中学校・高等学校の総合的な学習の時間が形骸化しており、改革の必要性が喫緊の課題となっていることから、総合的な学習の時間を学校改革の軸と位置づけ、カリキュラムマネジメントを実践しており、全国的に注目されている高知市立城東中学校の大谷俊彦校長先生にゲスト講師として来ていただき、中等教育コースの第8回目の授業で講義していただいた（写真1）。コロナ禍でも学びを止めずに質の高い総合的な学習の時間を実践している生の声を聴く機会に、履修生は熱心に耳を傾けている様子が見られた。

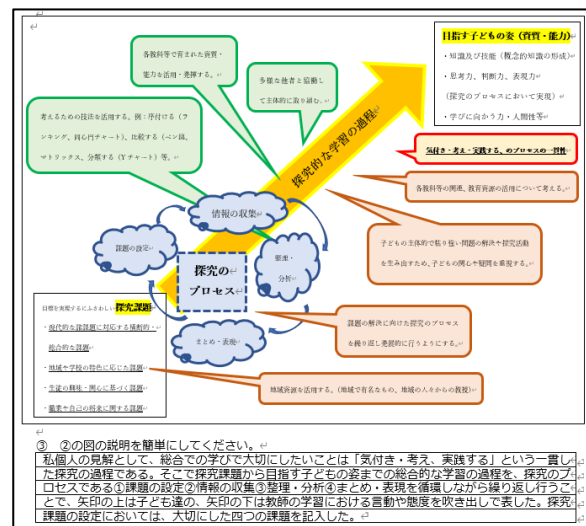
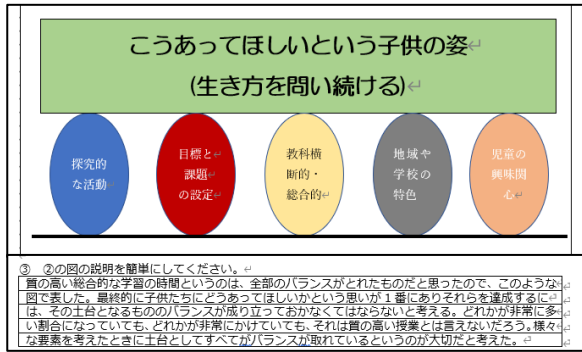


（写真1）ゲスト講師（現職中学校長）による事例紹介・講話の様子

三点目は、講義内容を踏まえて、質の高い総合の実現のために必要なキーワードを自分で5つ以上出して、それをイメージ図に表すことを課題として作成させたことである。受動的で発信力に乏しい現代の学生を評価し、本人に学習内容が本当に定着しているかを自覚させ、アクティブ・ラーニングを促すために、効果的な取り組みであった。

と思わせる効果も出ているように思う。

次年度は、さらに総合的な学習の時間の重要性が感じられるような授業の構築を目指して改善していきたい。



(図3) 最終課題：総合的な学習の時間のキーワードをイメージ図に表して説明したもの

3. 地域社会を核とした教育と研究の繋がり

学校教育は地域社会の中に位置づくものであり、地域を学びの素材・フィールドとしてカリキュラムをデザインしていくことは必須である。特に総合的な学習の時間では、地域社会の中に学びがあるといっても過言ではない。地域の課題を見つめ、グローバルな視野で探究的な学びを考えていくことの大切さを伝えることを大事に授業を組み立てた。

また松山市教育研究大会（総合的な学習の時間）の指導助言者でもあったため、それを活かし、愛媛県内の実践、指導方法なども数多く紹介した。愛媛県の教育の質の高さを学生に還元することにもつながっており、地域の良さを感じながら、愛媛で教師になりたい